

東京工芸大学の共同研究が ヘルシンキ国際教育映画祭で 特別賞・最優秀芸術教育映画賞を受賞

東京工芸大学(学長:吉野弘章、所在地:東京都中野区、以下本学)の共同研究(工学部と芸術学部の共同による研究、代表:矢島仁准教授)として制作された映画作品「笹色の紅・Grünen Metallglanz(以下、本作品)」が、2021年10月、ヘルシンキ国際教育映画祭「Helsinki Education Film Festival International, HEFFI2021」で、特別賞・最優秀芸術教育映画賞「BEST ART EDUCATIONAL FILM」を受賞しました。

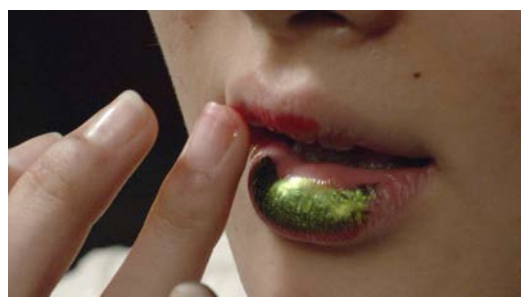
本作品は、「江戸の昔に流行した笹色の紅化粧の色彩の謎、なぜ赤い紅花色素が緑色の光沢を見せるのか」を、工学と芸術を融合してまとめ上げた東京工芸大学独自の共同研究による映像作品です。

従来、この現象に対してはゲーテ色彩論をベースにした非科学的な説明が通説となっていました。5年に渡る研究の結果として、赤い紅花色素が緑色光を吸収し緑色光を放射しているために生じていることを突き止め、学術論文での発表並びに一般に対する啓蒙を目的として10分45秒の短編科学映像に仕上げ解説しています。この取り組みは、伝統色の発色機構を化学と物理の壁を取り払って行われたものであり、縦割り教育が久しく続く教育界に、新しい学際的空氣を供給する試みでもあります。

受賞について、矢島准教授は「この映画祭は、特に観客とのディスカッションを大切にしている映画祭でしたが、コロナ禍により、現地に赴けずやむなくメッセージビデオでの舞台挨拶のみとなりました。会場に行ければ、実際に紅を使ってワークショップなどもできたと思い残念です。けれども、色の国際科学研究センターの活動が、日本の伝統的な紅花色素をサイエンスとして世界に伝えられたことは大きな励みで、またアートとしての評価は意外でしたが大きな喜びです。長い間研究の中核を担ってくださった佐々木麻衣子博士に感謝しています。受賞理由は明らかにされておりませんが、フィンランドでは2019年に同じテーマ、同じスタッフによる短編映画「紅」が美術館で上映されていることもあり、ジャポニズムに対する興味が大きいということも一因ではないかと思われます。」と話していました。



表彰式で紹介された映像の一部。HEFFI 2021 公式ホームページより



矢島 仁:「笹色の紅・Grünen Metallglanz」

■ヘルシンキ国際教育映画祭「Helsinki Education Film Festival International, HEFFI2021」

映画を通じて教育と学習体験を向上させることを目的として毎年9月から10月にかけてヘルシンキの教育機関や地元企業と共同で上映する他に、ワークショップ、ディスカッション、なども行われ、映画やビデオを通じて新世代を教育することを使命とした映画祭。授賞式はヘルシンキ現地時間の10月31日にリモートで行われた。

【URL】 <https://www.hefffinland.com/>

■「笹色の紅・Grünen Metallglanz」

- ・研究：佐々木麻衣子（本学映像学科 2016 年卒・本学大学院工学研究科工業化学専攻博士後期課程 2021 年修了）、高橋圭子（元本学工学部教授）、大嶋正人（本学工学部教授）、平岡一幸（本学工学部教授）、八代盛夫（本学工学部教授）、山田勝実（本学工学部教授）、矢島仁（本学芸術学部准教授）
- ・外国語監修：大島 武（本学芸術学部教授）
- ・企画/制作：矢島仁・佐々木麻衣子・能勢 広 2021 年作品 (10min. 45sec.)



"Sasairo-beni" makeup was popular in early 19th century Japan.
Why the red pigment show a green metallic luster?
This video is the first scientific proof
that the green luster of sasairo-beni has properties
similar to metal reflection.

ささいのべに ぐりゅーねん めたるぐらんつ

笹色の紅 Grünen Metallglanz
Sasairo-beni makeup in pre-modern Japan.

1810年発行のゲーテによる「色彩論」には、植物性の色素が見せる
緑色金属光沢に関する記述がある。同じ頃、江戸時代の日本では
唇を緑色と赤とに塗り分ける化粧が流行っていたという。
なぜ、赤い色素が緑色の光沢を持つのか、
東京工芸大学の研究成果に基づき解説する。

出演: 遠藤百華 音楽: 芳晴 解説: 山下恵理子 字幕翻訳: イアン・マクドゥーガル 外国語監修: 大島 武
図像提供: ポーラ文化研究所・栗野市・金沢工業大学 協力: 国立天文台野辺山・谷地八幡宮・東京工芸大学
技術: 東京現像所・アオイススタジオ・日本シネアーツ社・Eastman Film 5203/5207/5219・AMIRA
研究: 佐々木麻衣子・高橋圭子・大嶋正人・平岡一幸・八代盛夫・山田勝実・矢島仁
企画/製作: 佐々木麻衣子・能勢 広・矢島仁 2021年作品 (10min. 45sec.)
e-mail: yajima@img.t-kougei.ac.jp



本リリースに関するお問い合わせ

学校法人東京工芸大学 総務・企画課 広報担当 TEL:03-5371-2741 MAIL:university.pr@office.t-kougei.ac.jp